

2018年2月9日

ボーイング 777X 型機の初号機中央翼が完成

～半田工場をさらなる中央翼生産拠点へ～

SUBARUは、航空宇宙カンパニー半田工場(愛知県半田市)にて、米国ボーイング社の大型旅客機 777X 型機の初号機用中央翼*1の製造および主脚格納部の組立結合を完了し、中央翼ワークパッケージ*2が完成しました。半田工場では、ボーイング社の大型旅客機「777」、中型旅客機「787」、および防衛省の「固定翼哨戒機(P-1)」、「輸送機(C-2)」の中央翼の生産を行っており、世界的にも類まれな中央翼生産センターからの新たな中央翼の生産となります。

777X 型機の中央翼ワークパッケージ完成にあたり、本日2月9日、半田工場においてボーイング社 777X プログラム担当ヴァイスプレジデント兼ゼネラルマネージャーのエリック・リンドブラッド(Eric Lindblad)氏や、777/777X オペレーション担当ヴァイスプレジデントのジェイソン・クラーク(Jason Clark)氏、経済産業省、中部経済産業局、愛知県、一般財団法人日本航空機開発協会をはじめとする多数の来賓のご出席のもと出荷式を執り行いました。

ボーイング社によると、ボーイング 777X 型機は 2020 年にエアラインへの納入が開始される予定です。

当社は、ボーイング 777X 型機的设计開発段階から参画しており、777 型機で担当している中央翼および主脚格納部の組立結合、主脚扉と翼胴フェアリング(前部)に加えて、787 型機で新たに担当した翼々結合部(Side of Body)を担当しております。

SUBARUは、航空機の完成機生産に加え、中央翼・主翼の開発・製造も主要事業の一つとしており、今後も自社の技術を更に磨き、お客様の信頼と日本国内外の各企業との連携を基に、半田工場を中央翼生産の拠点として事業拡大を図っていきます。

*1:左右の主翼と前後の胴体を繋ぎ、荷重を支える部位

*2:中央翼および主脚格納部を組立結合した出荷形態



777X 出荷式



777X 出荷式